

# 國分寺報

発行  
真言宗国分寺派  
大本山国分寺教学部  
〒531-0064  
大阪市北区国分寺  
1-6-18  
06-6351-5637  
発行責任者 糟谷 真教



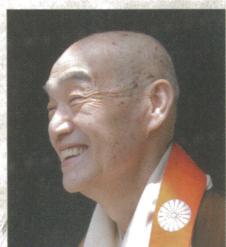
国分寺新講堂建立地から出土した旧金堂屋根の軒丸瓦

庚子  
今和二年  
一月一日  
大本山国分寺  
和教



## 御挨拶

真言宗国分寺派 管長  
大本山国分寺 座主 合田 和教



明けましておめでとうございます。

除夜の鐘の音とともに、新年を迎えます。毎日、

多くの方々に参拝していただき、年々参拝者が増える中、新年の挨拶をしながら年頭の法要を勤めさせていただいています。本当に感謝から始まる1年です。通して自分自身が参加出来ている喜びとともに、続けていくことの大切さに感謝しています。『言いたいこと』を言い『やりたいこと』をやり、いつも思いついたら一度は試してみたいたと、楽しくてワクワクしています。結果がどうなるかは別にして、前に進む、その場に立ち上がり、後退することもやつてみると、解らないことがいっぱいです。自分の内で大切にしていることは、いろいろなことを考えてます。そして納得いくまで考えます。思いつきであります。そしてやつてみると、考えることの大切さとともにやつてみても考えます。そしてやつてみると、考える方が良いと思える様になりたいのです。結果を求めるより、どんな結果につながるかを楽しみたいと、わかつた顔をするより知る喜び、どんな結果があるのか、また、それが次につながるのか、また、いろいろと考えたくさんの人達と話し、知恵をいただき、いつしょに楽しめるように1年を過ごしてしていきたい。

笑顔で過ごせる1年を、めざしたい、希みたいと思います。皆んなが、多くの寺の行事に参加していただき、仏様の御加護のもと、楽しい一刻を感じていただきたいとまた1年精進していきます。

本年も何卒よろしく、御指導を下さいます様お願い申し上げます。  
「喜び」を大きく、「怒り」、「悲しみ」はちいさく楽しさが長く続く1年であります様に。

進化して新たな歴史刻める年に

卷之三

謹んで新春を寿ぎ、皆々さまのご健康とご繁栄をお祈り申し上げます。

により、暴風・豪雨・洪水等の被害を受けられました皆様には、心からお見舞い申し上げます。

年は5月に改元、6月に大阪G20、9月にラグビーW杯、10月は即位の儀など、沢山の出来事がありました。

ラグビーで

中でもラグビー・フレンド力

において日本チームが「ベスト8」に進んだという活躍は、皆さまの記憶に新しい事かと思います。ラグビーの試合が終るとアナウンサーが「ノーサイド」という言葉を繰り返し伝えておりました。この言葉は、試合が終われば、どれだけ激しく戦った相手だとしても、お互いに健闘を称え合う、事を意味するそうです。また、「お辞儀」の文化のない国の選手達が試合の後にサポーターに向かってお辞儀をする光

国分寺では今年、講堂の工事が完了致します。新たな令和の時代に合わせ、新たな国分寺の歴史がはじまります。皆様には新しくなった講堂で、世界中が「調和」と「平和」で満ち溢れ

国分寺では今年講堂の工事が完了致します。新たな令和の時代に合わせ、新たな国分寺の歴史がはじまります。皆様には新しくなった講堂で、世界中が「調和」と「平和」で満ち溢れる事を祈願して頂き、「お参りに来てよかったです」、「訪れると心が落ち差し」と思つて頂ける様に、これからも時代に合わせてさらに進化する国分寺にして参りたいと思います。

既に戦後の復興の際に取り崩され、想定よりも深くコンクリートの基礎があつた為、新しい発見には至りませんでした。一つだけ貴重なものとすれば国分寺と銘が入った軒丸瓦が初めて発見された事でしょうか。これまでには旧山号の正國山と書かれた瓦しか発見されていませんでしたので新発見で御座います。当分は地味ですが地下の工事が進んでまいります。

また皆さん気が気になさっていた銀杏の大木も無事に新天地へ移植が完了いたしました（左写真）。後日拝見いたしましたがどことなく境内地よりのびのびとしているように見えますのは気のせい・・・でしょうか。

しかしまだ安心はできません、春に新芽が出て無事に根付くようにみなさんも願つて下さい。

日本の心広がる機会上

今年は7月から東京オリンピックが



謹んで新年のお慶ひを申し上げます

卷之二

【見る】ことで互いの考え方を形に

【見る】ことで二

その一節には一説國にそれそれ七重塔一基を敬つて造り併せて金光明最勝王經と妙法蓮華經を各10部ずつ写経させることとする。私もまた金文字で金光明最勝王經を写し塔ごとに一部ずつ納めたいと思う。これにより仏教の教

えが大空・大地とともにいつも盛んに  
続き仏のご加護が現世でも来世でも常  
に満ちることを願う」と並々ならぬ思  
いが云わります。またちょうど全国こ

国分寺が造立されていつた頃、宗祖空海は密教を日本にもたらします。僧寺である当山には金光明最勝王經が七重の塔に収められるも（現在七重の小塔は金堂内に安置しています）、その

卷之三

卷之三

の年でもあります。私自身前回のオリ  
ンピックは経験しておりますが、日  
本は大きな国家的事業推進においても  
昔から一丸となつて行つていたように  
思います。奈良時代という現在のよう  
な文明の無い非常に混乱した時代に、  
聖武天皇が「国分寺建立の詔」を發布  
され、国分寺を全国に作りシンボルと  
して総国分寺である奈良東大寺に、と  
てもなく大きな仏像を国家一丸と

は知る由もありませんが、それから  
1000年後、江戸時代に律院とし  
て再興され、本尊様は聖徳太子作と  
伝わる阿弥陀如来。護摩堂にいらつ  
しゃつたのは弘法大師御作と伝わる赤

不動尊像でしたか、皆、戦災で焼けてしまいます。明治以降は真言寺院として現在に至るのです。このように国家事業として建立され、その後、栄枯盛衰あるも1300年経てもなお存在しているのは昔も今も変わらず、人々の厚い信仰の拠り所であるからに他なりません。今の世相では最も救つてくださる仏様と想いを強くし、現在の御本尊様である薬師瑠璃光如来様を拝む日々で御座います。

千鳥ヶ淵戰没者慰靈法要、  
靖國神社公式參拜

昨年も11月14日に手を合わすことが出来ました。年々集まる僧侶も立場を超えて増え続け、現地へは集会所のホーテルより6台ものバスでの移動となりました。偶然、令和天皇の「大嘗宮の儀」と重なり、都内は物々しい警備の中で御座いました。

昨年の国分寺会での餅撒きで楽しそうに餅をとられる皆様のお顔を後ろから拝見していまして、我々の役割がいかに大きなものかをあらためて感じました。これからも我々の真剣に取り組む姿勢と檀信徒の皆様の笑顔が溢れる法要を組み上げていきたいと考えています。また『見る事』の成果がついてくれば、次に『聞く事』『考えて行動する事』がより充実していくと考えています。

た皆と一緒に参りに来ようね』と思つて頂ける法要を目指し進んで参ります。よろしくお願ひいたします。

執事としてのご縁いただき

縁いただき  
精進いたします

執事 田中 全義

明けましておめでとうございます。  
本年も何卒、宜しくお願ひ申し上げます。

時仕合を重ね、毎年、この会合が開かれました。旧年の中は国分寺派教師の諸大徳、檀信徒様には大変お世話になりました。本山や末寺での法要や、勉強会や講習会など、国分寺派教師と共に国分寺の歴史に触れ、特に学びの年がありました。

その一つとして国分寺派慈恩寺の施行施薬院、落慶法要に出仕させていた

だいたことです。

慈恩寺の住職林山昇時僧正はしゅ  
上津原壽晃僧正、お寺の職員様が一つ  
になり、お寺として大きな目標を掲  
げ、その目標に向かい達成なされまし  
た。お堂が完成されたことは素晴らしい  
ことではあります、何よりこの目  
標を掲げ、その道を精進されたことが  
素晴らしいことです。また、法要では  
多くの得度者も誕生され、住職のお弟  
子さんとなりました。日頃の住職のご  
尽力は勿論ですが、それを支えられる



信者様の気持ちに胸が熱くなりました。法要では護摩を焚かせていただき、皆様の御祈願が成就いたしますようにお祈りさせていただきました。護摩は火を焚き、本尊様や神様にお供えをいたし、皆様のお願い事が書かれた護摩木という木を炉中に入れ、ご祈祷いたします。慈恩寺様は多くの信者様のご参拝があり、護摩木がとても多く、と

い、信者様に本尊様が屋根を創つてくれる、それがお寺になるのだと思いました。

この度、私事ではございますが、国分寺の執事となりました。これも日頃本山で支えて頂いている、管長猊下、宗務総長、教師の方々の御蔭様であります。しかし、執事としてのお名前をいただいたことより、執事としてその屋根を創ることに精進したいと思います。本尊様に迎えていただき、この度のご縁を結んでいただけたこと、謙虚に受け止め、心より感謝申し上げ、令和二年のスタートとさせて頂きます。

本年も皆様にとつて幸せが訪れますように。

災害なき穏やかな年でありますように。

世界の人々が平和でありますように。

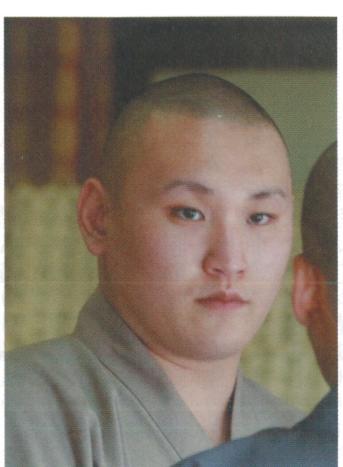
何よりこの一年が皆様にとつて健康でありますように、ご祈念申し上げます。

きました。本年も気を緩めず行事を行いたいと思います。

しいかと思います。東南西北中央は五大力尊のお呼び出しの順で、これも頭の片隅に置いてお喋りするのが良いのではないでしようか。

勿論東南西北は太陽の運行の順です。話は前後しますが今年は子の年です。子は亥の次の年、亥は十二支最後の年、終了の丁と始めの一を合わせて子となり子と読ませています。次に注意すべき事柄は一月から二月上旬位迄は前の年の気が残っているので、之に当たる年

こんなことを言つてゐる私ですが、何年か前は、人に伝えるどころか自分の思いすら伝えることが出来ませんでした。その頃の自分は相手に「気が付いてほしい」「わかつてほしい」と相手に求めることばかりで私が伝えたいことを伝えることができませんでした。やはり相手に伝えるには、自分の思い、相手の思いをどれだけ感じることができるかが、相手との会話にも繋がり相手との信頼関係にも繋がると思ひます。



ればならない事等々を御一緒に勉強してまいりたいと存じます。

今年は令和2年庚子七赤中宮金星の一年になります。干支の庚子は60年に一度巡つて来て還暦の方もおられるのは一般に知られている事ですが、九星の七赤中宮金星を絡ませると180年に一度巡つて来ることになり、陰の180年、陽の180年、合わせて360年これで『歴史は繰り返す』と格言の通りになつて参ります。

また十干の干は幹から、十二支の支は枝から干支となり、次に九星の星は天の星ではありません。各人の生年月日を星に置き替えて表しています。

従つて何年何月何日生れの何日生れを縮めると、星という字になります。

次に一白から九紫の九つの数は昔、中国の河図かぎという人が亀の甲羅を見て五行の木火土金水、一から九の文字を当てはめて後天盤（方位図）を考えた、

南方が上に北方が下にあるのをお気つきの方も居られると思います。一般的地図とは逆です。方位（方角）を見る際、うつかりミスをしますのでご注意下さい。そしてこの図は正八角形ですが出来れば面倒でも、正十二角形（30度十二になる）を自作していただき子丑寅・・亥の十二支を30度に一つずつに分配し東西南北（四正）に他は夫々60度（四隅）の図を作図すると便利です。

『吉凶禍福は動より生ず』九星は自分の星であり、方位を見る為のもので相生さうせいと読みます。相性については7頁に書かれています。くどい様ですが東西南北は分度器で測つて正確に各30度ですので注意して下さい。そして地図上では地軸が右へ五度程傾いている事も注意の一つです。話は余談になりますが、東西南北と表現しましたけれど、本当は東南西北中央と書くのが正

最後になりますが『人に伝える大切  
さ』、私自身これからも生涯ついてく  
るテーマ、課題になると思います。今  
はまだ完璧とは言えませんが、本年も  
たくさんの方の行事がありますが、一人で  
多くの方が笑顔になつていただける  
様に行事に取り組んで行きたいと思いま  
す。最後には胸を張つて「出来まし  
た」と皆様にここで言える様に精進  
し、人に伝えることを疎かにならない  
よう頑張ります。

『人に伝える大切さ』

教學部課長  
平賀  
照教

最後になりますが『人に伝える大切さ』、私自身これからも生涯ついてくるテーマ、課題になると思います。今はまだ完璧とは言えませんが、本年もたくさん行事がありますが、一人でも多くの人が笑顔になつていただける様に行事に取り組んで行きたいと思います。最後には胸を張つて「出来ました」と皆様にここで言える様に精進し、人に伝えることを疎かにならないよう頑張ります。

いねのみず とらうはきなり  
みうまひに さるとりはかね  
しきは つちなり

## 青龍山慈恩寺 施行施薬院 昨年10月に落慶法要

### 「上求菩薩 下化衆生」の菩薩道へ



た。

合田和教管長猊下を御導師様としてお迎えし、本山より糟谷眞宗教宗務総長、名幸觀教執事長、職員の皆様、北

海道から密修寺奥村法寛大僧正を初め、本州、九州各地より国分寺派の多くの教師の皆様に御出仕頂きました。

当日、午前中開眼法要、その後得度式を行い、24名が得度しました。一人一人剃髪し緊張の中、受戒得度し新たに生まれ変わり、皆様清々しい笑顔で仏の御弟子となりました。最高の仏縁は得度だと私は思います。

これまで10年、20年と信者様として慈恩寺と御縁があり、この度僧名を頂き、信者様から僧侶となる。

これからは『上求菩提、下化衆生』の菩薩道に入り、益々の精進を期待して止みません。

### 寺を守り

#### 正道を歩みます

元年10月27日、青龍山慈恩寺、施行施薬院落慶法要を勤めさせて頂きまし

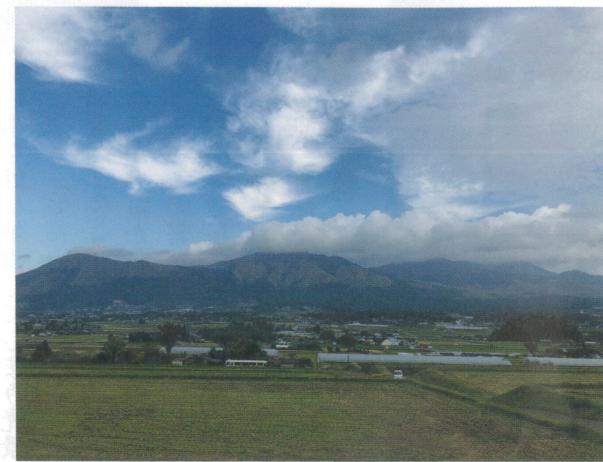
た。

す。誠にありがとうございました。  
今後共、より一層の御指導、御鞭撻をお願い申し上げます。感謝、ありがとうございます、そして嬉し涙。

合掌

**我が寺、慈恩寺、施行施薬院落慶法要を経験して**

古賀鳳晃



慈恩寺信者歴16年を経て、平成30年8月僧侶となり早いもので1年数ヶ月が過ぎました。日々仕事に追われ、休日をやり繰りしながら、僧侶としての勤めや修行、お通夜、葬儀等、活動しておりますと、1年数ヶ月という時間がとても短く感じられ、年を取ったことも忘れる勢いで御座います。得度式・講習会・加行・国分寺会などの行事を経験し、一つ一つ与えられた課題を達成することを目指に一生懸命精進した日々でした。

去る令和元年10月27日、私の人生の中で五本の指に入るほどの大行事「青龍山慈恩寺施行施薬院落慶法要」を行いました。

合田和教管長猊下をはじめ糟谷眞宗教宗務総長、本山職員の皆様、遠くは北海道より奥村法寛先生、九州の末寺の先生方も駆け付けてくださり盛大な落慶法要となりました。午前中は得度式が執り行われ、我が慈恩寺より新たに24名の得度者が誕生し仲間が増えた事を、とても嬉しく感じております。

慈恩寺信者歴16年を経て、平成30年8月僧侶となり早いもので1年数ヶ月が過ぎました。日々仕事に追われ、休日をやり繰りながら、僧侶としての勤めや修行、お通夜、葬儀等、活動しておりますと、1年数ヶ月という時間がとても短く感じられ、年を取ったことがとても短く感じられ、年を取ったことを忘れる勢いで御座います。得度式・講習会・加行・国分寺会などの行事を経験し、一つ一つ与えられた課題を達成することを目指に一生懸命精進した日々でした。

午後からは、いよいよ落慶法要本番です。日頃お見えにならない遠方の信者様も、日本全国より駆け付けてください大変な賑わいの中、法要を終えることが出来ました。私は鳳晃も庭讚・前讃の配役を賜り、とても褒められました。そこで、憧れの大般若經転読を経験し、今も心躍る心境で御座います。

青龍山慈恩寺は、まだ駆け出しの寺で御座います。

これより増え精進し、「生きとし生ける者、生命ある者、これから生まれ出づる者」全ての者の祈りの場であり続けるために、微力ながら僧侶として関わり続けていきたいと思います。

僧侶としてまだ駆け出しで右も左も

六百巻転読法要を勤修し、同時に田中全義僧正による護摩焚き、添護摩は1700枚程となり信者様、皆様の願いを仏様へ届けて頂きました。

また、近畿三十六不動の御砂踏み。境内に御砂踏み場を設け御不動様と深い御縁を結び、参拝者一同真剣に御砂踏みをしながら祈り、糟谷宗務総長より結願の印を頂きました。

特に、清水寺南松智恂僧正におかれましては太鼓師として、長い時間休まず御法助頂き、厚く御礼申し上げます。また、落慶法要当日、ここまで来るまでの長い準備の期間、多くのスタッフの皆さんへ心からお礼を言います。

「慈恩寺の信者さん達は皆んな僕の親戚やもんね。みんながおらんかったら、ここまで来れんかった。」

総代さん達、お父さん、お母さん、爺ちゃん、婆ちゃん、甥っ子、姪っ子、山田さん、ヨシ、寿雄、厳貴、ゆっこちゃん、忍京、ありがとうございます。

みんな、みんな、みんな、ありがとうございますね」。決して一人では生きられない、決してここまで歩いて来れませんでした、決して一人の力では寺は建ちません、決して一人では大般若經六百巻転読出来ません、全て皆様の御陰、御力添によるものです。

私は皆様から、僧侶として生かされ、皆様から成長させて頂きました。まだまだ道半ば、無知の無知、愚の愚の私であります。

精進は元より、信者皆様よりお預かりした、この寺を守り、初心を忘れず正道を歩んで行く事を御誓いし、皆様への御礼の言葉とかえさせて頂きました。

これから更に多くの方に慈恩寺を

知つて頂き、御神様仏様と御縁を頂かれて手を合わせて頂けるよう、私も精進して参ります。

合掌

得度式が終わり、落慶法要の準備が進む中、私は初めて法要の裏方の役目を頂き、私の不備でご迷惑をお掛け致せて頂きました。皆、真摯に信仰とは何かと模索しながら実践されている方が終わるまでかなり時間を有しましたが、皆さんのお顔が笑顔で、有難い事に初めての方にも沢山お越し頂きました。

そして、落慶法要が始まり施行施薬院の外にも多くの信徒さんが参道脇にいらつしやり、鳥の声と法螺貝の音色の響く中、手を合わせお迎え下さい

ました。

得度式も多くの教師の方々が護摩を焚いて頂き、信徒の皆さんお焼香後、奥村管長猊下より御加持して頂きました。

合掌

得度式も多くの教師の方々が護摩を

焚いて頂き、信徒の皆さんお焼香後、奥村管長猊下より御加持して頂きました。

得度式も多くの教師の方々が護摩を

焚いて頂き、信徒の皆さんお焼香後、奥村管長猊下より御加持して頂きました。

</

## 卒塔婆書く筆休まらず

令和元年8月16日（金）大本山国分寺昭和金堂にて施餓鬼御供養が執り行われました。朝9時より施餓鬼の経木に写す僧侶の筆が休まることのないほど沢山の方がお参りになりました。

書き写された卒塔婆は、一体一体丁寧に御供養させて頂き、午後1時からの総廻向では、国分寺職員一同、施餓鬼御供要を行い、お越し頂いた皆様の卒塔婆を御供養させて頂きました。皆様、大切な方やご先祖様の御供



が終え、笑顔でお寺を後にされる方が多く見られました。

また、参拝された方にかき氷の御接待をさせて頂いておりますが、本年は、用意した氷がなくなるほどの盛況された皆様よくお参りくださいました。今年も心を込めた御供養と冷たいかき氷でお待ちしております。

## 百万遍念珠廻して

### 願かけて

夕方になり昭和金堂では、來ていただいた皆様のご健康ご多幸の祈願に百万遍念珠廻しが行われ、大きな念珠の房が自分の下に来るたび子供たちは「勉強ができますように」「サッカ」がうまくなりますように」と思い思いました。

令和元年8月23日金曜日、国分寺境内にて地蔵盆が行われました。境内では、スープーボールくらい、シャボン玉などの遊びのほかにかき氷や流しそうめんの御接待が行われました。近頃、地域の方のご協力により近くの子供たちが「国分寺で楽しいことをやっている」と聞きつけ、境内いっぱいに子供たちの遊ぶ声が響きわたりました。それを見て長年、国分寺のお地蔵様をお世話して頂いている皆様にも笑みがこぼれています。

令和元年8月23日金曜日、国分寺境内にて地蔵盆が行われました。境内では、スープーボールくらい、シャボン玉などの遊びのほかにかき氷や流しそうめんの御接待が行われました。近頃、地域の方のご協力により近くの子供たちが「国分寺で楽しいことをやっている」と聞きつけ、境内いっぱいに子供たちの遊ぶ声が響きわたりました。それを見て長年、国分寺のお地蔵様をお世話して頂いている皆様にも笑みがこぼれています。

境内に張り巡らされた提灯が点灯され、子供たちが「わあ、きれい」と感嘆する声が聞こえました。やはり、沢山の提灯の明かりは、昔懐かしい縁日を思い出します。参加された大人の方も子供のころを思い出すような一日になつたのです、ないでしょうか。

お手伝い頂いた皆様、本当に有難うございました。来年度も宜しくお願ひ致します。境内に張り巡らされた提灯が点灯され、子供たちが「わあ、きれい」と感嘆する声が聞こえました。参加された大人の方も子供のころを思い出すような一日になつたのです、ないでしょうか。

### 秋彼岸会

## ご先祖様との繋がり実感して

令和元年9月23日（月曜日）大本山国分寺昭和金堂内にて秋彼岸会（百万枚大護摩供）が執り行われました。秋彼岸会は、ご先祖様の御供養をさせて頂いておりますが、百万枚大護摩供の中日にもあたり毎年、護摩付きの法要を行っております。午前中に卒塔婆での供養の申し込みと護摩祈願の添木をお求めの方が来られました。

皆様、ご先祖様の御供養も自分たちの健康祈願も両方行う方が多く、確かに

に自分の健康あつてのご先祖様の御供養である事を妙に納得してしまう光景でした。

ご先祖さまがいるから今の私がいる。今の私がいるからご先祖様の御供養ができる。この繋がりを両方とも有難く思える法要でした。また、お汁粉の御接待も行つており、御供養の後、ホッと一息、甘味をとられ、安心した面持ちで寺を後にされました。

「声明」は、広い意味で宗教音楽という方もおられます。抑揚のあるお経の事です。歌のように聞こえるかもしれません、音があつての文言ではなく、文言あつての抑揚なのです。

「声明」は唱えるのであります。しかし一般の方は、「きれいな調べだな」とか「心躍るような音だな」という見方をされても良いと考えています。これは、僧侶にとつては、唱えるべき大切なお経なのですが、一般の方からすれば心地の良い音楽に聞こえるからです。

## 法要の楽しみ方 岩尾 觀水

「声明」は唱えるのであります。しかし一般の方は、「きれいな調べだな」とか「心躍るような音だな」という見方をされても良いと考えています。これは、僧侶にとつては、唱えるべき大切なお経なのですが、一般の方からすれば心地の良い音楽に聞こえるからです。

（左ページへ続く）

## 中身濃い道中に 紅葉の高野山

### 秋の団体参拝

令和元年11月3日（日曜日）大本山国分寺・毘紅山龍最寺合同による団体参拝が行われました。今回の行先は、紅葉も見ごろな高野山へ参拝して参りました。

奥の院中の橋にて上綱様に加わっていただき、「一路お大師様のおられる奥の院燈籠堂へ。道中いつもなら見逃すお墓、いつもなら遠くの風景と同化しているお地蔵様のあんな話やこんな話ゆつくり丁寧に説明して頂き団体参拝参加の皆様の「このお墓は、あの人のだつたのね。」「そんなお話があるお地蔵様だったのですか。」となるほどが沢山詰まつた道中となりました。

奥の院をお参りし、お腹の虫が鳴き始めた頃、皆様お待ちかねの昼食、大明王院にて精進料理を頂きました。膳の上に並べられた沢山の小鉢、すべてが精進（動物性のものを使つていな）味も申し分なし。歩き疲れもなんのその、お腹いっぱいになつたところで、珠数屋佳兵衛でおみやげ物を買ひに、沢山のおみやげを持ち、バスに乗り込み、一行は、金剛峯寺へ上綱様と再び合流させて頂き門を

（右ページより続く）題目とは少しずれましたが、一般の参拝者の方が法要の中で「声明」を楽しむのは、かなり「通」な方です。法要では、色々な場面で「声明」が聞こえます。例えば「四智梵語」という「声明」は、ほぼ必ず出できます。大概の法要で使われるお経なので耳に慣れてくると違うように聞こえます。ですから、「今回、四智梵語を注意深く聞いて気持ちよくなりました」とお話しすると、うれしい反面、逆に怖いです。しかし、「博士」にのつとてお唱えしているのでそこまでの差が出るのは、聞いている側の気持ちのかか唱えている人の鍛錬なのか・とにかく、法要の意義の中で沢山の方をして楽しんでいただき、参加して頂くのは、とても良いことに思います。

そして、「声明」の「通」を目指す方に朗報がございます。北は北海道、南は九州より国分寺派の僧侶が集まつて令和2年度国分寺会が行われます。国分寺会では、いろいろな動きや有難い事が沢山詰まつた法要が行われます。そして、今回楽しみ方として紹介した「声明」も沢山出できます。初めて聞くものもあると思いますので、令和2年5月17日（日曜日）ご参加の程、宜しくお願ひ致します。例年通り卒塔婆供養も受付しております。



この度、高野山最勝院の大森照龍上綱様が奥の院、金剛峯寺、伽藍をご案内して頂く事になり、皆様どんなことを教えて頂けるのか期待に胸膨らむ道中となりました。

奥の院中の橋にて上綱様に加わっていただき、「一路お大師様のおられる奥の院燈籠堂へ。道中いつもなら見逃すお墓、いつもなら遠くの風景と同化しているお地蔵様のあんな話やこんな話ゆつくり丁寧に説明して頂き団体参拝参加の皆様の「このお墓は、あの人のだつたのね。」「そんなお話があるお地蔵様だったのですか。」となるほどが沢山詰まつた道中となりました。

奥の院をお参りし、お腹の虫が鳴き始めた頃、皆様お待ちかねの昼食、大明王院にて精進料理を頂きました。膳の上に並べられた沢山の小鉢、すべてが精進（動物性のものを使つていな）味も申し分なし。歩き疲れもなんのその、お腹いっぱいになつたところで、珠数屋佳兵衛でおみやげ物を買ひに、沢山のおみやげを持ち、バスに乗り込み、一行は、金剛峯寺へ上綱様と再び合流させて頂き門を

この度、高野山最勝院の大森照龍上綱様が奥の院、金剛峯寺、伽藍をご案内して頂く事になり、皆様どんなことを教えて頂けるのか期待に胸膨らむ道中となりました。

令和2年度上半期年間行事	
十二月三十一日	二十三時四十五分（ 正月一日）
一月一日	正月会（除夜の鐘）
二月一～七日	節分 (金光明最勝王經秘法祈願会)
三月春分の日	春彼岸会
四月五日	春の団体参拝
五月第三日曜日	国分寺会
節分	
節分の日を中日とした前後三日間計一週間、皆様から集められた大願を成就するべくご祈願をいたします。（注）非公開の法要です。	
春彼岸会	
三月春分の日に国分寺会は、5月17日13時より島原市・法祥院・酒井隆安師の会奉行にて「光明真言加持土砂法」を行います。この法要では、参拝者皆様に粉の上のせた土砂をお加持する（混ぜる）体験をして頂きます。その土砂を光明真言の功徳をあて、法要後、功德の詰まつた「加持土砂」をお持ち帰り頂きます。	
法要後、昨年好評を頂きました「餅	

まき」を行います。餅は「大昔、今の大分県に白い鳥が飛んできて『餅』になり、それから国が豊かになつた」（「風土記」より）と記される縁起物です。

また、国分寺におきまして、卒塔婆供養、各種祈願も例年通り受付しておりますのでお申しふみください。皆様の参拝をお待ちしております。

新しい時代が始まり昭和は遠く・・・どんどん加速する世の中、しかししながら大切なことは時代にどんな変化があろうとも守らなければならぬいものがあるのも確かで御座います。懐かし写真館、今号では少々手前共の



令和2年の国分寺会は5月17日13時より島原市・法祥院・酒井隆安師の会奉行にて「光明真言加持土砂法」を行います。この法要では、参拝者皆様に粉（へぎ）の上にのせた土砂をお加持する（混ぜる）体験をして頂きます。その土砂を光明真言の功徳をあて、法要後、功徳の詰まつた「加持土砂」をお持ち帰り頂きます。

## 令和2年国分寺会のご案内

まき」を行います。餉は「太昔、今の大分県に白い鳥が飛んできて『餅』になり、それから国が豊かになつた」（「風土記」より）と記される縁起物です。

また、国分寺におきまして、卒塔婆供養、各種祈願も例年通り受付しておりますのでお申し込みください。皆様の参拝をお待ちしております。

令和2年度上半期年間行事	
十二月三十一日	二十三時四十五分（正月会（除夜の鐘））
一月一日	二月一～七日
三月春分の日	（金光明最勝王経秘法祈願会）
四月五日	春の団体参拝
五月第三日曜日	春彼岸会
春彼岸会	節分
三月春分の日に国分寺昭和金堂で行 非公開の法要です。	節分の日を中日とした前後三日間計 一週間、皆様から集められた大願を成就するべくご祈願をいたします。（注）

【縦回向】が行われます。また境内にて炊き出しによる「御接待」がありますので、どなた様もお誘い合わせの上、ご参拝ください。

### 国分寺会

一年に一回国分寺にて執行される、大本山国分寺、並びに真言宗国分寺派の大法会です。北は北海道から南は九州まで国分寺派僧侶による先祖供養やご祈願を主とした法要で、毎年前年と違った「修法」により行われています。本年度は、【光明真言加持土砂法要】を行います。【加持土砂】は、密教で土砂に光明真言を誦して加持し、その土砂を病者に授けて、その苦悩を除かせ、墓に散じて、亡者の罪を滅せさせると、又、家の前に撒きてその家の者の罪も滅せさせるといいます。

卷之三

写し、午後一時より国分寺僧侶による

總本山・各寺院・講社御用達  
土產物一式、各種念珠、仏具仏像、位牌、  
軸物、仏書経木、経木塔婆、各種守札、  
杓子、金剛流御詠歌法具、教典一式

仏壇  
仏具

翠光堂

# 寶蔵寺・南野靈園

# 2010～2014 懐かし写真館

